

(1993年11月26日設立)

英語語法文法学会 THE SOCIETY OF ENGLISH GRAMMAR AND USAGE

事務局便り

No. 30

2015年4月10日

会長 内田聖二

事務局 〒520-2194 大津市瀬田大江町横谷1-5 龍谷大学社会学部 五十嵐海理研究室内

tel.: 077-543-7436 (研究室) / fax: 077-543-7615 (社会学部教務課) email: segu.office@gmail.com

郵便振替口座 02260-0-70393 英語語法文法学会

ウェブサイト: <http://segu.sakura.ne.jp>

◆『英語語法文法研究』第21号刊行

『英語語法文法研究』第21号が2014年12月に刊行されました。第21回大会でのシンポジウム「名詞句とその修飾をめぐって」の論文3編のほか、2本の研究論文と2013年度の学会賞受賞著作の書評が掲載されています。

◆『英語語法文法研究』第18号の論文取り消しについて

2011年12月に出版された『英語語法文法研究』第18号の5～20頁に掲載された論文1点について研究不正の疑いがあるとの通報を受け、調査委員会を立ち上げて研究不正の事実を確認し、2015年3月の運営委員会の議を経て、当該論文を取り消し、学会ウェブサイトにて公表いたしました。今後、この論文からの引用は出来ませんのでご留意ください。

◆「研究倫理ガイドライン」について

2014年の2回（8月、10月）の運営委員会の審議を経て、2014年11月20日付で標記のガイドラインを制定し、学会ウェブサイトで公開しました。以下に再掲します。

英語語法文法学会 研究倫理ガイドライン

1. 実証的研究における研究倫理の重要性

英語語法文法学会では、設立趣意書にありますように、「英語の具体的な語彙や構文の特性を一つ一つ明らかにする」記述的な研究を追究することを目指しております。本学会の会員には、自身の研究の成果に基づくデータや論証を積み重ね、

他にはない結論・展望を提供する独創的な研究を行うことが求められます。データの捏造や改ざん、他の研究者による研究からの盗用や剽窃などの不正行為は、本学会の趣旨に反するだけでなく、本学会およびその会員に重大な不利益・不名誉をもたらすのはもちろん、広く英語学・言語学の研究の妨げになるものです。従いまして、本学会は、研究倫理を遵守し、正当な方法での研究を行うことを会員諸氏に求めます。

2. 研究不正への対応

万が一、本学会において、大会発表、大会予稿集や機関誌『英語語法文法研究』に掲載された予稿・論文、あるいは学会賞を授与した論文や著書において、以下「3. 不正行為の内容」で述べる不正行為が発覚した場合は、その事実を公表し、当該の発表や論文等を取り消すことがあります。また、発表や論文の審査の過程で不正が発覚した場合には、それらを審査対象とはしません。その他、運営委員会において必要と認めた措置をとることがあります。

3. 不正行為の内容

本学会において、研究活動における不正行為とは、以下のいずれかに当たる行為を故意に行うことを指します。

- (1) 捏造：もともと根拠のない架空のデータや研究成果等を作成すること。
- (2) 改ざん：データや研究成果を正当な手続きによらない形で改変すること。
- (3) 盗用：他人の考察、データ等を、その人の許可を得ないで、または、適切な表示なくそのまま自分のものとして公にする

こと。

- (4) 剽窃：他人の論文、著書、口頭発表の資料等に含まれる表現・内容やインターネット上で公開されているものを、引用を明示することなく自分のものとして用いること。

関連ホームページ

日本英語学会：<http://elsj.kaitakusha.co.jp/01.html>
文部科学省：

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu12/houkoku/attach/1334652.htm
(2014年11月20日)

◆第23回大会開催案内

英語語法文法学会第23回大会を下記の要領で開催します。

日時：2015（平成27）年10月24日（土）

会場：龍谷大学（深草学舎）
〒612-8577 京都市伏見区深草本町 67
<http://www.ryukoku.ac.jp/>

順路：JR 奈良線「稲荷」駅下車、南西へ徒歩約10分（普通列車のみ停車）。
京阪本線「深草」駅下車、西へ徒歩約5分
京都市営地下鉄烏丸線「くいな橋」駅下車、東へ徒歩約10分。

●大阪駅からは

JR 京都線（東海道線）新快速で京都駅へ約30分。乗り換えてJR 奈良線で稲荷駅へ約6分、あるいは、京都市営地下鉄烏丸線でくいな橋駅へ約5分。

●京都駅からは

JR 奈良線で稲荷駅へ約6分。
京都市営地下鉄烏丸線でくいな橋駅へ約5分。
JR 奈良線にて約2分で東福寺、同駅にて京阪本線に乗り換えて深草駅へ約4分。

今回のシンポジウムは、「副詞を巡る諸問題：語法文法、辞書記述、談話、文体」をテーマとして準備中です。司会、講師と各講師のテーマは以下のとおりです。ご期待ください。

司会・講師 滝沢直宏（立命館大学）
「ly副詞にみる副詞の多様性：
語法・文法・パターン」

講師 井上永幸（広島大学）
「語法研究の要：副詞—コーパスを
活用した辞書編集の立場から—」

講師 都築雅子（中京大学）
「副詞（類）actually, really, indeed,

in fact の考察」

講師 堀正広（熊本学園大学）
「小説における副詞研究の多様性」
[敬称略]

◆第11回英語語法文法セミナー

標記セミナーを下記の要領で開催いたします。

日時：2015（平成27）年8月3日（月）

13時30分～17時30分

会場：関西学院大学大阪梅田キャンパス
〒530-0013 大阪市北区茶屋町19-19
アプローズタワー14階1405室

参加費：2,000円（資料代を含む）

今回のテーマは、『認知文法の考え方を現場にいかす』です。司会と講師、各講師のテーマは以下のとおりです。

司会(兼 講師) 大橋 浩（九州大学）
「なくてはならない修飾語」
講師 川瀬義清（西南学院大学）
「英語の受動文について」
講師 植田正暢（北九州市立大学）
「二重目的語構文と「やりもらい」」
講師 長加奈子（北九州市立大学）
「日本人英語学習者の二重目的語構文使用の
特徴と学校英文法への示唆：動詞giveの場
合」

[敬称略]

必要な方にはセミナー受講証も発行いたします。奮ってご参加ください。参加ご希望の方は、平成27年7月31日(金)までに件名を「セミナー参加希望」として segu.seminar@gmail.com までお申し込みください。

◆第15回「英語語法文法学会賞」選考結果

初代会長故小西友七先生の寄付金を基金とした「第15回英語語法文法学会賞」（2013年4月1日～2014年3月31日までに出版された単行本が対象）について、今回は「該当者なし」という結果になったことが第22回大会において内田会長より報告されました。

◆第16回「英語語法文法学会賞」について

英語の語法・文法に関する優れた単行本を出版した学会会員に贈られる第15回学会賞対象図書のおすすめを依頼いたします。対象図書は2014年4月1日～2015年3月31日までに出版された単行本です。自薦、他薦を問いませんので、同封の推薦用紙に推

薦図書、推薦理由を記入の上、fax あるいは郵便で
2015年5月10日までに事務局宛にお送りいただく
か、推薦の内容を email で事務局までお知らせくだ
さい（〒520-2194 大阪市瀬田大江町横谷 1-5 龍
谷大学社会学部 五十嵐海理研究室内 fax: 077 543
7615 email: segu.office@gmail.com）。

英語語法文法学会賞の授賞に関する規定

(授賞)

第2条 学会賞は、前年度4月1日から翌年3月
末日までに、英語の語法・文法に関する優れた
単行本を出版した学会会員に対して、学会
が設置する「英語語法文法学会賞委員会」（以
下「委員会」という）の選考により、運営委
員会の議を経て授賞する。

- 2 授賞は、原則として年度ごとに1件とする。
- 3 授賞式は年次大会において行う。
- 4 受賞者に対しては、賞とともに賞金10万円
を贈呈する。 (関係部分一部抜粋)

◆第5回「英語語法文法学会奨励賞」選考結果

若手会員による英語の語法・文法に関する優れた
論文に対して贈られる第5回「英語語法文法学会奨
励賞」は、今回は「該当者なし」という結果になっ
たことが2014年度総会において内田聖二会長より
報告されました。

なお、第6回「英語語法文法学会奨励賞」は、本
年7月10日締め切りの『英語語法文法研究』への応
募論文がその対象となります。

英語語法文法学会奨励賞授賞規定

(授賞の対象)

第2条 奨励賞は、毎年7月10日を締切日とする。

『英語語法文法研究』への応募論文（研究論文
に限る。シンポジウム論文、語法ノート、書
評は除く）を対象として、英語語法文法学会
の趣旨に照らし、実証性・独創性・発展性に
富む、優れた研究に対して授賞する。応募者
は上記の締め切り日の時点で、39歳以下、ま
たは大学院修士課程あるいは博士前期課程修
了10年以内の学会会員に限る。

(選考方法)

第3条 編集委員会が選考にあたり、運営委員会
の議を経て決定する。奨励賞の授賞は、原則
として年度ごとに1篇以内とする。

(選考結果の発表および授賞式)

第4条 翌年度の大会の総会にて行う。受賞者
に対しては、賞とともに記念品を贈呈する。

(関係部分一部抜粋)

◆運営委員の交替

本年3月7日開催の運営委員会において、運営委員
として以下の方々の就任が承認されました（任期は
2015年4月1日より2017年3月末日まで）。

澤田茂保（金沢大学）

中澤和夫（青山学院大学） [50音順。敬称略]

また、本年3月末日をもって、以下の方々が運
営委員を退任されました。学会運営に対するご尽
力に心より感謝申し上げます。

澤田治美（関西外国語大学）

関 茂樹（大阪市立大学） [50音順。敬称略]

◆編集委員の交替

関 茂樹先生（大阪市立大学）が本年度末をもっ
て編集委員を退任されました。永年のご尽力に心
より感謝申し上げます。後任として、澤田茂保先
生（金沢大学）が編集委員に就任されることが本
年3月7日開催の運営委員会において承認されま
した。

◆運営委員会委員

2014年度より以下の3委員会が設置されまし
た。各委員会の委員長、副委員長、構成員は、下
記のとおりです（◎は委員長、○は副委員長（次
期委員長））。

学会賞委員会

◎内田聖二、澤田治美、八木克正、安井泉
大会実行委員会

◎松村瑞子、○林龍次郎、滝沢直宏、西田光
一、吉田幸治、吉良文孝

セミナー委員会

◎神崎高明、○大室剛志、牛江一裕、大橋 浩
[敬称略]

◆第23回大会研究発表者募集

第23回大会での「研究発表」の発表者を募集しま
す。会員の方は、下記の研究発表応募規定にしたが
い、事務局宛に奮ってご応募下さい。

<研究発表応募規定>

1. 発表者は英語語法文法学会の会員でなければ
ならない。
2. 発表時間は25分以内（別に質疑応答が10分）
とする。
3. 応募者は、下記①-④の応募書類を作成し、英

語語法文法学会事務局に締め切り日までに提出すること。

- ① 発表要旨 (MS Word ファイル あるいは PDF ファイル) : A4 判 32 字×25 行 (文字の大きさは 12 ポイント) で、本文と注を含めて 4 枚以内とする。ただし、参考文献表は枚数に含めない。冒頭には発表題名のみを記し、名前・所属は記入しないこと。
 - ② 応募者情報 (MS Word ファイル あるいは PDF ファイル) : 発表題目、氏名 (ふりがな)、所属・職名 (学生会員の場合は学年も記入)、郵便番号、住所、電話番号、fax 番号、**email address** を明記したもの。①とは別のファイルを作成すること。
 - ③ 発表要旨 (書類) : ①と同じ内容を印刷したものを 1 部。
 - ④ 応募者情報 (書類) : ②と同じ内容を印刷したものを 1 部。③とは別紙に印刷すること。
4. 上記①②は email に添付し、英語語法文法学会事務局宛(seggu.office@gmail.com)に送信する。件名は「研究発表応募」とする。
上記③④は封筒の表に「研究発表応募」と朱書した上で、英語語法文法学会事務局宛 (〒520-2194 大津市瀬田大江町横谷 1-5 龍谷大学社会学部 五十嵐海理研究室室内) に送付する。
5. 応募締め切りは **7 月 25 日 (土) (必着)** とする。
6. 選考結果は 8 月中旬までに通知する。
7. 採用者は発表要旨 (500 字以内) を 8 月 21 日 (金) までに、予稿集の原稿を 9 月 24 日 (木) までに提出すること。これらの書式と締め切りは採用通知送付の際に改めて通知する。
(2014 年 3 月 8 日 改定)

[事務局からのお願い]

応募者の方々には、発表要旨のファイル送信に先立って、ファイル情報等に作成者名を残さないよう、ファイルの「プロパティ」等をご確認ください。よろしくお願いいたします。

◆第 23 回大会語法ワークショップ発表者募集

第23回大会の「語法ワークショップ」の発表者を募ります。語や構文などを取り上げ、言語資料に基づきその語・構文の統語上、意味上、あるいは語用論上の特性を明らかにすることを目的とします。語法ノートのものでも結構ですから、会員の方は下記の語法ワークショップ応募規定にしたがい、事務局宛に奮ってご応募ください。

<語法ワークショップ応募規定>

1. 発表者は英語語法文法学会の会員でなければならない。
 2. 発表時間は 12 分以内 (別に質疑応答が 5 分) とする。
 3. 応募者は、下記①-④の応募書類を作成し、英語語法文法学会事務局に締め切り日までに提出すること。
 - ① 発表要旨 (MS Word ファイル あるいは PDF ファイル) : A4 判 32 字×25 行 (文字の大きさは 12 ポイント) で、本文と注を含めて 4 枚以内とする。ただし、参考文献表は枚数に含めない。冒頭には発表題名のみを記し、名前・所属は記入しないこと。
 - ② 応募者情報 (MS Word ファイル あるいは PDF ファイル) : 発表題目、氏名 (ふりがな)、所属・職名 (学生会員の場合は学年も記入)、郵便番号、住所、電話番号、fax 番号、**email address** を明記したもの。①とは別のファイルを作成すること。
 - ③ 発表要旨 (書類) : ①と同じ内容を印刷したものを 1 部。
 - ④ 応募者情報 (書類) : ②と同じ内容を印刷したものを 1 部。③とは別紙に印刷すること。
4. 上記①②は email に添付し、英語語法文法学会事務局宛(seggu.office@gmail.com)に送信する。件名は「語法ワークショップ応募」とする。
上記③④は封筒の表に「語法ワークショップ応募」と朱書した上で、英語語法文法学会事務局宛 (〒520-2194 大津市瀬田大江町横谷 1-5 龍谷大学社会学部 五十嵐海理研究室室内) に送付する。
5. 応募書類の提出期限は **7 月 25 日 (土) (必着)** とする。
6. 選考結果は 8 月中旬までに通知する。
7. 採用者は発表要旨 (500 字以内) を 8 月 21 日 (金) までに、予稿集の原稿を 9 月 24 日 (木) までに提出すること。これらの書式と締め切りは採用通知送付の際に改めて通知する。
(2014 年 3 月 8 日 改定)

[事務局からのお願い]

応募者の方々には、発表要旨のファイル送信に先立って、ファイル情報等に作成者名を残さないよう、ファイルの「プロパティ」等をご確認ください。よろしくお願いいたします。

【応募上の注意】

研究発表と語法ワークショップの両方に同時に応募することはできません。

◆『英語語法文法研究』投稿募集

『英語語法文法研究』（第22号）への投稿を受け付けています。論文・語法ノートへの投稿は現代英語の語法および文法研究に資する内容のもので未発表論文に限ります。原稿ができた時点で早目に投稿していただければと思います。

最近インターネット上の用例を使用されている投稿論文が多いようです。インターネット上の用例を使用する場合は、インフォーマントチェックを必ず受けておいてくださるようお願いいたします。

なお、本規程の第5条の部分が昨年8月の運営委員会で改訂されておりますので、ご確認をお願いいたします。

＜『英語語法文法研究』（第22号）の論文・語法ノートへの投稿規定＞

1. 投稿は会員に限る。
2. 投稿論文は現代英語の語法および文法研究に資する内容のものであり、未発表の論文であること。
3. 投稿締め切りは**7月10日(金)(必着)**、採否決定を8月中旬、刊行を12月とする。
4. 論文の場合、長さは34文字×31行、16枚以内とする。語法ノートの場合、長さは34文字×31行、6枚以内のものとする。
5. 論文・語法ノートは、A4用紙にプリントアウトしたものを1部提出すること。また、氏名（ふりがな）、所属、連絡先の住所、電話番号、fax番号、email addressは、論文とは別紙で付けること。なお、投稿論文が奨励賞の審査対象となることを希望する場合は、必ず、当該年度の投稿論文応募締切時点での年齢と、大学院修士課程あるいは博士前期課程を修了した年月（または在籍中ならばその旨）を別紙に明記すること。（奨励賞は、39歳以下、または大学院修士課程あるいは博士前期課程修了10年以内の学会会員に授与されます。）
6. 前項5と同じもののfile（MS WordあるいはPDF）をemailに添付して、編集委員長（segu.paper@gmail.com）宛に送ること。なお、件名を「投稿」とすること。
7. 入力に関しては、既刊号の論文を参考にし、特に以下の点に留意すること。
 - a. 例文の前後に1行ずつ空白行を設けること。
 - b. 各節には見出しをつけ、節の前に1行ずつ空白行を設けること。
 - c. 外字、機種特有の文字・記号は使用しないこと。
 - d. 和文中の英語の語句の前後に半角のスペースを入れる。
 - e. 2桁以上の数字は半角を用いる。
 - f. 小説・論文の出典は下のように表記する。
(S. Sheldon, *The Windmill*), (Declerck 1979: 123)
8. 注は脚注とする。
9. 参考文献の書式は以下の例にならうこと。
Chomsky, N. 1986a. *Barriers*. Cambridge, Mass: MIT Press.
Chomsky, N. 1986b. *Knowledge of Language: Its Nature, Origin, and Use*. New York: Praeger.
Hopper, P. J. 1979. "Aspect and Foregrounding in Discourse." In T. Givón ed., *Syntax and Semantics* 12, 213-241. New York: Academic Press.
柏野健次. 1993. 「easy タイプの形容詞の3つの意味」衣笠忠司・赤野一郎・内田聖二（編）『英語基礎語彙の文法』145-154. 東京：英宝社。
川本一郎. 1975. 「前置詞について」『英語青年』第120巻第5号，23-26。
Lasnik, H. and M. Saito. 1984. "On the Nature of Proper Government." *Linguistic Inquiry* 15, 235-289.
島村礼子. 1990. 『英語の語形成とその生産性』東京：リーベル出版。
van der Leek, F. 1996. "The English Conative Construction: A Compositional Account." *CLS* 32, 363-373.
10. 原稿の採否は編集委員会の審査により決定する。
11. 著者校正は1回とし、変更は字句の修正のみとする。
12. 原稿料は支払わない。
13. 送付先：〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25 青山学院大学文学部英米文学科 中澤和夫（「投稿論文在中」と朱記のこと）まで。
(2014年8月3日改定)

【応募上の注意】

研究発表との二重応募、他学会の機関誌との二重投稿はお控えください。

◆英語語法文法学会第22回大会

英語語法文法学会第22回大会は2014年10月25日(土)に摂南大学(寝屋川キャンパス)にて開催され、語法ワークショップ、研究発表、シンポジウムが行われました。多数の参加者があり、活発な議論、討論が行われました。開催校委員の家口美智子先生、西川眞由美先生、田中秀毅先生、住吉 誠先生、また、お手伝いいただいた摂南大学の学生の方々にお礼を申し上げます。

語法ワークショップ 10.40-11.31
(5号館 542)

司会 吉田幸治 (近畿大学)

1. 「be ... to V 構文の文法化—義務を表す表現を中心に—」 武内祐樹 (関西学院大学大学院)
2. 「コーパスデータに基づく“had better 構文”の新しい語法」 長谷川順子 (大阪工業大学非常勤)
3. 「happy と glad が従える補文標識 that の有無に関する一考察」 土屋知洋 (防衛大学校)

研究発表 13.00-14.45

第1室 (5号館 542)

司会 野村忠央 (北海道教育大学)

1. 「on top of と at the top of について」 西前 明 (明治学院大学非常勤)
2. 「Yes-No 疑問文に現れる認識的用法の may について」 明日誠一 (青山学院大学非常勤)
3. 「比較の強調語句に関する文法知識の検証」 井上 聡 (環太平洋大学)

第2室 (5号館 543)

司会 松山哲也 (和歌山大学)

1. 「証拠性を表す have it that 構文」 五十嵐啓太、本多正敏 (筑波大学大学院)
2. 「“I so envy her and her talent!” envy: dative verb から emotion verb へ」 松元豊子 (神戸市外国語大学非常勤)
3. 「英語における有方向動詞の存在意義を問う」 出水孝典 (神戸学院大学)

シンポジウム 15.35-17.45
(5号館 551) 15.35-17.45)

テーマ 「文法化と構文をめぐって」

司会 松村瑞子 (九州大学)

1. 「文法化研究の展開—談話標識をめぐって—」 川端朋広 (愛知大学)
2. 「文法化と構文的变化」 米倉よう子 (奈良教育大学)
3. 「構文化の射程と文法化」 前田 満 (愛知学院大学)

懇親会 18.00-19.30

スカイラウンジ (11号館 11階)

◆2014年度新入会員紹介

以下の氏名掲載可とした方々をはじめ23名が新しく会員になりました(五十音順)。

天川 泰昭 (防衛大学校)
井上 聡 (環太平洋大学)
上野 義雄 (早稲田大学)
川端 朋広 (愛知大学)
後藤 リサ (関西外国語大学)
佐藤 詩恵 (立命館大学)
澤野 亜美 (静岡大学)
柴田 かよ子 (京都府立大学(院))
宗宮 喜代子 (岐阜聖徳学園大学)
田岡 千明 (神戸女学院大学)
永井 正司 (名古屋工業大学)
中野 梓 (青山学院大学(院))
長谷川 明子 (奈良県立大学 (非))
姫田 慎也 (龍谷大学)
平野 洋平 (広島大学(院))
本多 正敏 (筑波大学(院))
前田 満 (愛知学院大学)
吉田 明子 (東洋大学(院))
渡邊 信 (麗澤大学)

[50音順。敬称略]

◆年会費納入のお願い

2013年4月1日から年会費が変更され、「一般会員」は5,000円、「学生会員」は4,000円となりました。つきましては、2015年度(2015年4月~2016年3月)会費を同封の郵便払込取扱票でお支払いください。申し訳ありません、払込手数料は各自ご負担ください(郵便振替料金は120円(ATMからは80円)です)。金額欄が10,000円または8,000円になっている方は、昨年度分年会費が未納ですので、併せて納入くださいますようお願いいたします。会費が2年連続して未納の場合は、会員資格が失効いたします。「学生会員」は郵便払込取扱票の通信欄に住所・氏名に加えまして、「在籍大学院名」もご記入ください。なお、学会からの配布物を確実にお手元にお届けするために、住所・所属に変更や異動のある方は、新住所・所属を郵便払込取扱票通信欄に明記いただくか、英語語法文法学会のウェブサイト(<http://segu.sakura.ne.jp/>)の「登録情報の変更」連絡用フォームにて事務局までお知らせくださいますようお願い申し上げます。

◆新刊書紹介

事務局にお知らせいただいた会員の刊行物を逐次紹介いたしますので、事務局宛にお知らせください。(出版月順、出版時期が同じ場合は著者の50音順)

- 衣笠忠司. 2014 年 10 月『英語学習者のための Google・英辞郎検索術』東京：開拓社.
- 澤田治美. 2014 年 11 月『現代意味解釈講義』東京：開拓社.
- Demizu, Takanori. 2015 年 3 月. *Lexicalization Typology and Event Structure Templates: Toward Isomorphic Mapping between Macro-event and Syntactic Structures*. Tokyo: Kaitakusha.
- 深田智、西田光一、田村敏広(編). 2015 年 3 月『言語研究の視座』東京：開拓社.

編集後記

内田会長のもと、2014 年 4 月より本学会事務局を預かっております五十嵐です。会計担当の住吉とともに、あと 1 年間、事務を担当させていただきます。宜しくお願いいたします。

2014 年度は、国内有数の研究機関を舞台に、生命科学分野で起こった研究不正事案を皮切りに、研究者の研究に対する姿勢が問われる 1 年間となりました。残念ながら、本学会においても、研究不正が含まれるとして、機関誌に掲載された論文 1 本を取り消しました。このような形でご迷惑をおかけすることになり、会員の皆さま方には深くお詫びいたします。

上段の事態を受けまして、運営委員会で慎重な議論を重ね、「研究倫理ガイドライン」を作成いたしました。盛り込みました内容は、会員の皆さま方には自明なことばかりで、それを周知させていただくにあたり、事務局といたしましては大変恐縮いたしております。

また、このところ財政の逼迫した状態が続いています。2 年前に会費を値上げしましたが、目に見えた改善効果とはなっていません。事務局でもできるだけ節約に努めていますが、この状況を一挙に打開する秘策はないように思われます。こういった中で、今できることの一つは、学会活動の基本である会員の数を増やすことではないかと思えます。上記の報告の通り、2014 年度は新規入会会員が増加しましたが、さらに学会員が増えれば学会活動も益々活発となり、学会の発展にも直結します。皆様の周りにおられる未加入の方に勧誘の一声をかけていただければ幸甚です。

今後とも、英語の語法・文法という観点から情報を発信するという本学会にしかできない形で、英語学の世界に貢献していくことができればと思います。会員の皆さま方のこれまでのお力添えに感謝いたしますとともに、今後とも、ご協力のほど宜しくお願いいたします。

(2015 年 4 月 4 日 五十嵐海理)